

第1回おだわら高齢者福祉介護計画策定検討委員会議事録

日時：平成25年12月17日（火）

午後2時00分～3時30分

場所：議会全員協議会室

出席委員 渡邊清治委員、羽鳥孝郎委員、矢吹久美子委員、市川昭維子委員、川上聖嗣委員、
加藤馨委員、市川初江委員、木村秀昭委員、藤間敬子委員、石黒俊行委員、
小泉道人委員、錦織誠一委員（：委員長、：副委員長）
事務局 福祉健康部長、福祉健康部副部長、高齢福祉課長、高齢福祉課副課長、介護予防担当副
課長、高齢福祉課高齢者相談係長、高齢福祉課主査、高齢福祉課主事
介護保険課長、介護認定担当副課長、介護給付係長、介護保険課主査
欠席者 長谷川剛委員、奥村知弘委員、長谷川嘉春委員
傍聴者 1名

【議事】

議題1 委員長及び副委員長の選出について

事務局

（説明）

- ・資料3「おだわら高齢者福祉介護計画策定検討委員会規則」の第4条に基づき、委員長1名、副委員長1名の選出について説明。

羽鳥委員

（意見）

- ・事務局からの提案を求める。

事務局

（説明）

- ・事務局提案について委員全員の賛同を得たので、委員長に木村秀昭委員、副委員長に渡邊清治委員を提案する。

全委員

- ・賛同（異議なし）

議題 2 会議の公開について

事務局

(説明)

- ・資料 4「おだわら高齢者福祉介護計画策定検討委員会の会議の公開に関する要領」をもとに会議の公開と傍聴者の入室について説明。
- ・出席委員全員の承認を得たことにより、部屋の外で待機していた傍聴者 1 名の入室を許可する。

(質疑なし)

議題 3 おだわら高齢者福祉介護計画について

事務局

(説明)

- ・資料 5 - 1「おだわら高齢者福祉介護計画について」及び資料 5 - 2「第 6 期高齢者福祉介護計画をめぐる国等の動向について」をもとに、計画の目的、計画の位置付け、国の動向等について説明。

木村委員長

(意見)

- ・第 6 期計画は 2025 年を見据えたものを作成するようになっているが、策定したものについては、きちんと裏付けし、次期計画につなげていく必要がある。第 5 期計画についてもしっかりと検証してもらいたい。

事務局

(回答)

- ・今後の予定の中でも説明するが、第 5 期計画の検証については、26 年度に予定している委員会の中で行う予定となっている。これを踏まえ第 6 期計画に生かしてまいりたいと考えている。

議題 4 高齢者実態調査等について

事務局

(説明)

- ・資料 6「高齢者実態調査等について」をもとに、調査の目的、調査の種類、高齢者実態調査・介護保険利用者等調査項目(案)等について説明。

石黒委員

(質問)

- ・第5期計画のときは、調査項目がもっとあったはず。どういう変化をしてきたかを知りたい。

事務局

(回答)

- ・調査項目 、 、 から については第5期計画策定時にも調査したものであり、経年変化を確認できるようになっている。また、項目については、資料では大項目のみを示している設問もあり、さらに細かい質問も用意されている。

加藤委員

(質問)

- ・資料5 - 2 地域包括ケアシステムだが、特別養護老人ホームは地域に根付いた施設ということでやっているが、残念ながら資料の図に特別養護老人ホームは入っていない。施設に入ったらゴールというようなニュアンスである。また、施設入所者にもアンケートを実施してほしい。施設に入って充実しているのか、財政的にはどうなのかなどを聞いてほしい。

事務局

(回答)

- ・調査内容等にもよるので、実施できるかどうかについては検討させていただきたい。

矢吹委員

(質問)

- ・健康についての質問項目が少ないように感じるが、あまり質問しないのか。

事務局

(回答)

- ・国の雛形が出ているため、これを基に実施していきたいと考えている。

矢吹委員

(質問)

- ・調査項目 に「薬を何種類飲んでいますか」という質問はあるが、「薬を管理している人は誰か」を追加してほしい。
- ・調査項目 に関して、「介護サービス未利用者」の中には、サービスを受けたいのに利用できるサービスがないという方もいるため、「一般高齢者」に対する調査の中で尋ねてみてはどうか。また、調査項目 の質問内容を、サービス利用者や未利用者に行わないのはなぜか。

事務局

(回答)

- ・お配りした資料は、内容を簡略化しているので読み取れないかもしれないが、介護サービス未利用者に対する調査の中に、介護サービスを利用しない理由を尋ねる項目があるため、そちらで把握できるものと考えている。
- ・介護予防事業は、基本的に要介護等認定を受けていない方が対象となることから、介護予防事業のニーズ等を調査するため一般高齢者を対象に調査するものである。なお、調査項目「社会参加」において、趣味やスポーツ、生涯学習など高齢者の活動状況を把握することとなっている。広く介護予防を捉えると、「社会参加促進」も重要な施策となるため、要介護等認定者については、この枠組みの中で調査・検討していきたい。

木村委員長

(質問)

- ・アンケート調査を実施する前に、委員に調査票を郵送することはできないか。

事務局

(回答)

- ・アンケート調査項目については本日の会議結果を踏まえ、事務局で精査させていただく。委員の皆様には本日出されたご意見の反映状況も付け、アンケート発送前に同じものを事前に発送する。

加藤委員

(質問)

- ・5,000人を無作為でと言われたが、認知症の方にも発送するのか。

事務局

(回答)

- ・無作為抽出のため認知症の方にも発送される場合はある。ただし、アンケートの記入については、質問項目の最初に回答者が誰であるかを確認することになっている。

川上委員

(質問)

- ・プロダクティブエイジングに興味がある。柏市がモデル事業を実施していると思うが、小田原市としてプロジェクトのイメージがあるのか。

事務局

(回答)

- ・現在、市長、企画サイドとプロダクティブエイジングの理念や基本方針を検討しているところである。

川上委員

(意見)

- ・楽しみにしている。何か関わりが持てるとうれしい。

石黒委員

(意見)

- ・私は老人ホームでボランティアをしているが、無償ボランティアよりも、有償ボランティアで短時間の就労を希望する人が多いと感じている。第6期計画で自らの意見を生かせればと思い今回参加した。

羽鳥委員

(意見)

- ・関係団体が連携し、行政に提案することも大切である。団体・個々の意見を組織としてまとめ、行政システムに組み込ませてもらうようなイメージである。

市川(昭)委員

(意見)

- ・地域で実施するイベントによっては、主催者側はよかろうと思っても、参加者からは不満の声が出ているものもある。地域の実態が把握できていないのではないかと思う。何をやるにしても、地域の実状をよく見つめながら実施していただきたい。

市川(初)委員

(意見)

- ・一つ一つ検討し、考えながら自分のできることをやらせてもらおうと思っている。市民の誰もが第一に健康であることを考えながら進めていきたい。

藤間委員

(意見)

- ・社会福祉協議会でも地域の中で見守り活動を重点的に行っている。それぞれの地域が安心して暮らせるようボランティアの役割を常に意識していくことが大切ではないかと考えている。

石黒委員

(意見)

- ・シルバー人材センターにも登録している。同年輩の人が数多くいる中で、積極的な社会参加を望む声は多い。

小泉委員

(意見)

- ・60歳を過ぎてから横浜の特別養護老人ホームにいる。介護保険制度が変わっていく中で、行政施策も、それに対応していくべきと感じる。第6期計画を策定する上で、これまでの計画を検討することは必要である。また、横浜市でもそうであったが、高齢者の実態調査についても、調査をして分かることが多い。先を見据えて、どう考えるのが大切だと思う。

錦織委員

(意見)

- ・介護老人保健施設に勤務しているが、特別養護老人ホームと介護老人保健施設の違いがわからないなど、様々な相談を受けながらやっている。特に制度が変わると、市民はどこに相談したらいいのかわからないことが多い。今後は、これまで以上に地域に密着して行っていただろうと思うが、この会議で得たものを広めたいと考えている。

議題5 今後の予定について

事務局

(説明)

- ・資料7「今後の予定について」をもとに実施回数、開催予定月、検討内容等について説明。

(質疑なし)

議題6 その他

(特になし)

以上

平成26年1月16日

おだわら高齢者福祉介護計画策定検討委員会
委員各位

小田原市高齢福祉課

第1回おだわら高齢者福祉介護計画策定検討委員会の結果について

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

去る12月17日に開催いたしましたおだわら高齢者福祉介護計画策定検討委員会の会議記録がまとまりましたので、ご査収ください。

今後とも、委員会の開催運営に特段のご配慮を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

事務担当 高齢福祉課 高齢者政策係
電話 0465-33-1842